

JOURNAL

2022 vol.70



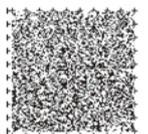
「久留米市男女平等推進センター市民グループ公募企画事業」採択事業の紹介です。

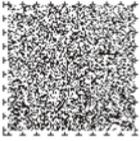
少女と女性の視点に立ち、より幸せな社会と未来の実現を目指した活動（ボランティア活動やSDGsの学習など）を行う、ガールスカウト福岡県第5団の皆さんが「じぶんらしさをみつけよう～ジェンダー平等を実現しよう～」と題し、11月28日（日）に男女の差別に対する子どもと親の認識の違いを考える質問形式の講演、パープルリボンの啓発物やパープルツリーの制作を行いました。

この活動を通じて、「女性に対する暴力が自分の身近に関係することに気づいた」「身体的暴力だけでなく、SNSによるいじめなど今まで気に留めていなかったことも考えられるようになった」などの感想がありました。

男女平等推進センターは、これからも市民の皆さんと一緒に男女平等を進めていきます。

（特集） 令和4年度 男女平等推進センター事業計画





事業紹介

女性のまちづくり参画講座

10月から3月まで
2校区で複数回開催



コーディネーター
NPO法人福岡ジェンダー研究所

地域活動への女性の参画を進めるために、意識啓発や女性自身のスキルアップ、ネットワークづくりを支援し、地域コミュニティ組織やPTA等の役員登用につながるような女性人材の発掘、育成事業を実施しました。既に地域で活動されている女性も、これから活動する女性も共に地域の実情にあった課題を洗い出し、その解決に向け積極的な意見交換や発表が行われました。



東国分校区

「もしもわたしが避難所の運営委員になったら」

~~~~~

防災と男女共同参画をテーマに大規模災害時の拠点となる避難所のあり方について、東日本大震災から学ぶワークショップを開催しました。災害時には、乳幼児、妊産婦、障害者、外国人、高齢者など立場の違った人が避難してきます。災害における多様性の視点とは、女性・男性という性の違いや、障害の有無や種類、年齢、家族構成など、被災者一人ひとりが置かれた立場の違いを前提として、課題に気づいたり支援を実施していくという考え方です。



避難所リーダーの多くは男性の役員が担いがちですが、幅広いニーズを支援するには女性リーダーの存在は重要で、平常時からの男女平等の仕組みづくりが大切です。参加者からは「私たちの地域は私たちで守る。校区の安全・安心のために頑張ります」と言った積極的な意見が出されました。

## 安武校区

### 「住みたくなるまち 安武 未来のカタチをみんなで語ろう！」

~~~~~



「住みたくなるまちってどんなまち？」をテーマに、音楽が流れるリラックスした雰囲気の中で、テーブルを回りながら語り合うワールドカフェ形式で自分たちが住む地域について考えました。

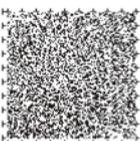
「安武校区のいいところ、気になるところ。ここがもっとこうなったらいいな。多様な人がまちづくりに参画すると、どんなことが変わりそう？ここがもっとこうなったら理想の地域像につながると思うのはどんなこと？」など、日頃、地域活動をする中で抱えている悩みや思いなど、課題と背景を付箋に書き出し模造紙にまとめました。



いろんな課題を参加者同士で共有し、どのような解決策やアイデアがあるか、また安武の魅力などを出し合い語り合いました。

ひとりのつづやきは個人が抱える問題と思われがちですが、地域や社会の課題でもあり改善の種にもなります。

グループ発表では「おもいをカタチにするには自分事として捉え、自分たちの力で変えられるという認識を持つことが大事。未来のために一歩行動に移しましょう」など、地域に関わることへの意識が高まり、『みんなで楽しく、住みたくなるまち安武』を目指し活発な意見交換がされました。

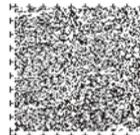


参加者の声

- 自分の住んでいるところを改めて考える機会が持てて良かったです。
- 私も住んでいるまちをもっと良い方向へ一緒に考え、取り組みたいと思いました。
- 住みやすいまちにするために、通じ合う気持ちを相手に伝えることが大事だと思いました。

LGBT の存在をもっと身近に ～誰もが生きやすい世の中を～

1月15日開催



身近で聞くことも多くなったLGBTについて、NPO法人カラフルチェンジラボのたかしさんを講師にお招きし、LGBTに関する基礎的知識や日本の現状などについて、当事者の思いを交えながらお話しいただきました。

民間の調査で、11人に1人の割合といわれるLGBTは、当事者が年々増えてきたのではなく、当事者が言い出しやすい社会に変わってきたからだということです。

一方で、婚姻に相当する法的保障がない、戸籍上の性別変更要件が厳しい、国連から是正勧告を受けているなど日本の厳しい現状についても教えていただきました。

また、仲のいい友人や母親に初めてカミングアウトした際のこと、社会に出てからの偏見や差別の経験など、当事者の思いをお聞きし、会場では涙を流す参加者もいました。

参加者からは「ジェンダー平等を考える中でLGBTについて社会全体で認めること、男性とか女性とかにとらわれず、その人個人として関係を築くことの大切さを感じた。」「これからもたくさんこのような場を設けてもらいたい。」などの感想が寄せられました。

誰もが自分らしく生きていける社会を実現するためにも、LGBTについて正しく理解し、今から自分にできることを実践することが必要です。その気づきにつながる講座でした。

LGBTとは？

- L (レズビアン) … 女性を愛する女性
- G (ゲイ) … 男性を愛する男性
- B (バイセクシュアル)
… 男性も女性も愛する人
- T (トランスジェンダー)
… 心と身体の性が同じでない人

就業支援講座 女性のためのパソコン技術習得講座

社会的自立を目指し、就職、再就職、転職、ステップアップをめざしている女性たちを対象に、仕事で活用できるパソコン技術を習得する講座を開催しました。

ワード・エクセル基礎講座：11月16日より全10回

エクセル講座：2月1日より全6回

講師に伺いました

Q：この講座で重点を置いたところは？

A：初心者も自己流だった人もきちんと操作できるようになっていただくため、最初の基本的操作をゆっくりと繰り返し行いました。また、質問があった際には全員にその内容と対処法を共有して理解を深めました。

Q：受講者はどんなことができるようになりましたか？

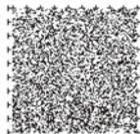
A：合計や平均、最大値や最小値を求める関数を理解し、それを利用した表を作成できるようになりました。実践的な質問も多く、例えば1ページに収まらないような大きな表を体裁よく印刷する操作方法を習得しました。（エクセル講座の例）



参加者の声

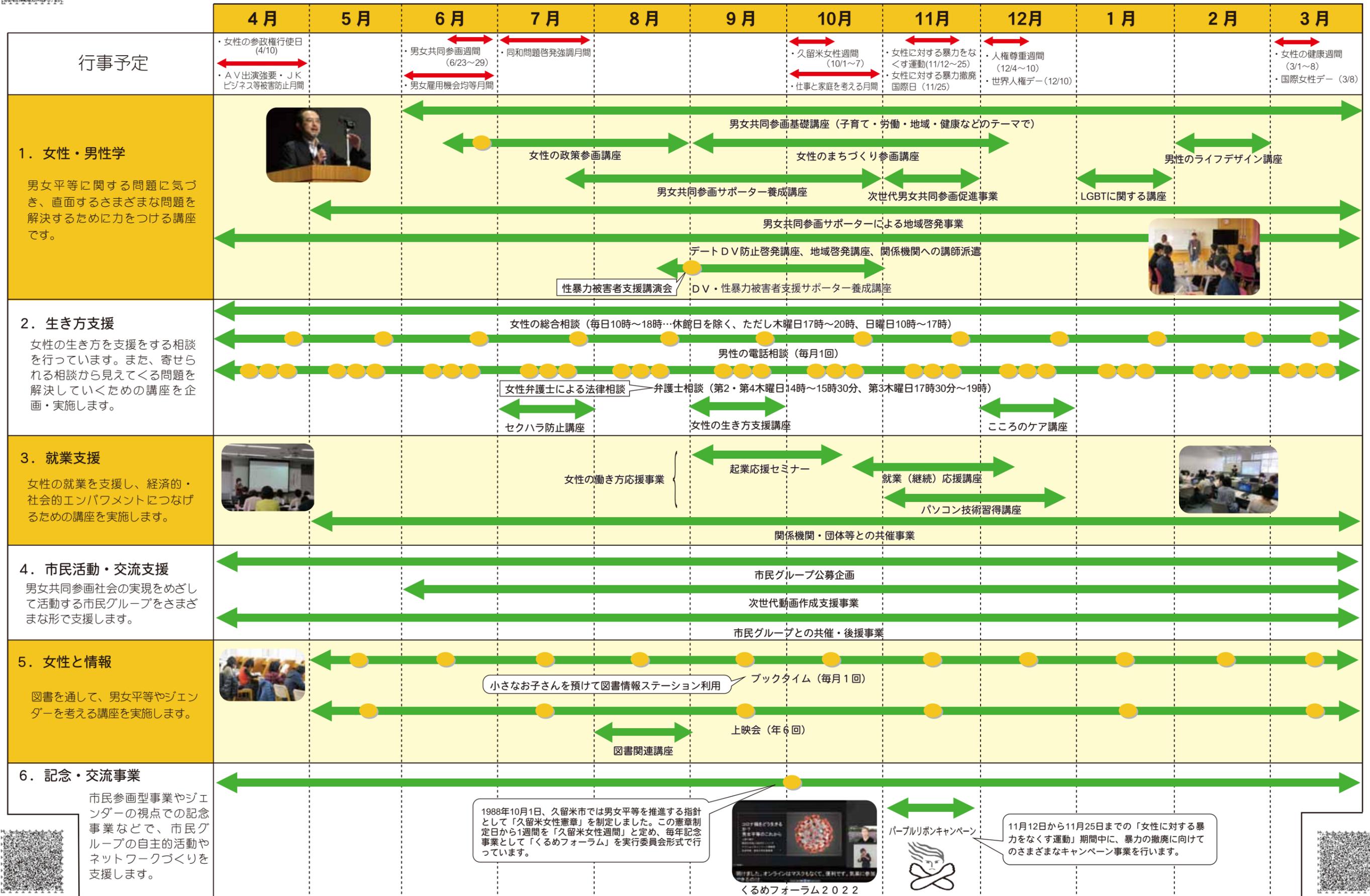
(アンケートから要約・抜粋)

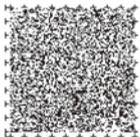
- 初心者で不安でしたが、わかりやすく丁寧に指導してもらえました。質問にも適切に答えていただき、毎回楽しく参加できました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で勤務時間・日数の減少により収入が大きく減りました。ひとり親家庭ということもあり、まだ仕事が安定せず、生活費の確保が十分ではない状況ですが、講座に参加し、集中して学習できてよかったです。内容もとてもわかりやすかったです。
- 託児があったので参加できました。とてもよかったので、これを機に他の講座にも参加してみたいです。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で会社を辞めたが、このような講座があると今後の社会復帰に役立つので、もっと受講したいと思いました。



令和4年度 男女平等推進センター事業計画

久留米市男女平等推進センターでは、令和4年度もさまざまな講座やイベントを企画し実施していきます。
新しい発見、新たな出会い。これからの生き方のヒントが見つかるかも!?
ぜひセンターの事業に参加してみませんか!





事業紹介

次世代男女共同参画促進事業

学生と社会人のワールドカフェ

～これからの自分をデザインする～

11月28日
オンライン
(Zoom) 開催

社会人になる前に知りたいこと

ワールドカフェとは、カフェのようにリラックスした状態でグループを組み、気軽に色んなことを話すことを目的としたトーク手法です。

福岡女子大学准教授の和栗百恵さんをコーディネーターとして、学生と社会人をマッチング。男女平等や家事・育児・仕事など、社会人になった後に直面するテーマについて対話しました。



会場の様子。
多様な意見が飛び交いました。

夫婦別姓ってどう思う？

社会人1人と学生3人程度でグループを作り、社会人に質問したり、学生同士で意見交換をしていきました。

テーマで取り上げた「夫婦別姓」では、肯定的な学生もいれば、少し答えに悩んでいる学生もいました。トークが白熱する中、ある留学生から「中国では夫婦別姓が普通です」と意見がありました。国によって考え方も感じ方も違う。学生の皆さんにも社会人の皆さんにとっても良いトークになったと思います。



コーディネーター
和栗 百恵さん
(福岡女子大学准教授)

参加者の声

- 家事、育児について考え方を知ることができてよかったです。
- 夫婦別姓について考えるきっかけとなりました。
など多数の感想があり、参加者は社会人や同世代の学生と話すことで仕事や家庭に対する視野が広がったようです。

デートDVって何？

恋人・元恋人といった親しい関係の中で起こる身体的、精神的、性的、経済的暴力などをデートDV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。デートDVは、大人だけではなく、中学生や高校生、大学生などの若い人たちの間でも起こっています。

恋人と安心して楽しく穏やかな時を過ごすために、一緒にいるときも離れているときも、お互いを尊重し大切にできる関係性を築きましょう。

- 殴る・たたく・蹴る
- 行動を監視・制限する
- 交友関係を制限する
- 嫌がっているのに裸等を撮影する
- メールなどをチェックする
- 外で働かせない・アルバイトを辞めさせる



上記例はすべて暴力です。
どのような暴力であったとしても、暴力をふるうことは許されるものではありません。
暴力によらないコミュニケーション方法があるはずです。

ひとりで抱え込まずに相談してください

【市】男女平等推進センター相談室 電話0942-30-7802

【国】DV相談+（プラス） 電話0120-279-889

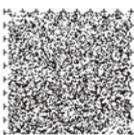
詳細はこちら

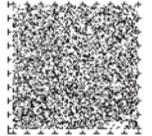


市



国





労働法を学ぶことは身を守る武器になります。
自分の権利を知り、働き方をかえてみませんか。



講師 佐崎 和子さん

社会保険労務士

「働く女性の全国ホットライン」担当

新型コロナウイルス感染症拡大を起因として、日本の雇用環境は目まぐるしく変化しています。特に影響を受けたのが女性の就業が多いサービス業です。勤め先の休業や時間短縮による収入の減少、休業手当の未払いなど数多くの声が全国から上がっています。

そのような状況の中、社会保険労務士の佐崎和子さんを講師にお招きし、雇用環境の現状そして労働法について学んでいただくセミナーを開催しました。

講座前半では実際にあった事例を踏まえて雇用環境の現状を、後半では「働くときのルール」として休暇制度や時間外労働、またパワーハラスメントへの対応など、労働者の持つ権利についてお話いただきました。

参加者からは「知らずに働いていて損していた部分もある。色んな情報を知れてよかった。」「毎年このような講座を聞きたい。」などの感想が寄せられました。

労働法を知る・学ぶということはそれを正しく主張できることにも繋がります。自分の権利を知ることが働き方をかえる第一歩。それを学べる講座でした。

男女共同参画社会づくり表彰

9月22日、本庁舎で「男女共同参画社会づくり表彰」の表彰式が行われました。この表彰は地域の男女共同参画社会づくりに貢献し、市民の規範となる人または団体を称えるものです。男女共同参画社会づくりの優れた取組を積極的に発信し、市民の関心と意欲を高め、その実現を目指します。第2回となる令和3年度は、仕事と子育ての両立を応援する「Sora Project（ソラプロジェクト）」と女性が活躍するまちづくりを行っている「青峰校区まちづくり振興会」の2団体が受賞しました。

●仕事や育児の小さな1歩目を応援したい

仕事や育児等について、不安や悩みを共有できる場や情報を提供する「育休後カフェ®」を開催し、仕事と育児等の両立や育休後の女性の就労を支援しているSora Project。

子育てをしている人たちに仕事と家事・育児の両立のためのセミナーを行い、ワーク・ライフ・バランスの意識づけや女性の活躍を推進し男女共同参画の促進に寄与している点が評価されました。

●女性登用率が46校区中、第1位

役員の業務負担軽減や会議の時間帯を子育て世帯に合わせるなど、地域活動に女性が参画し活躍しやすい環境をつくっている青峰校区まちづくり振興会。

コミュニティ組織における女性役員の割合が46.7%、校区における女性自治会長の割合が50%と、久留米市校区まちづくり連絡協議会を構成する46校区コミュニティ組織の中で、2年連続第1位となっています。

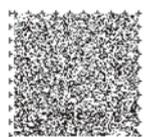
性別に関わらず、地域活動で活躍できる男女共同参画社会に向けた環境づくりの成果が表れている点が評価されました。

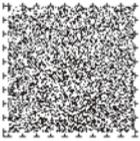


問 協働推進部男女平等政策課

電話：0942-30-9044

FAX：0942-30-9703





相談室だより

久しぶりに帰省して家族や友人に会ったなど弾んだ声を聞いたのも束の間、再びわたし達は新型コロナウイルスの感染拡大に脅かされています。

●ジェンダー格差の顕在化

令和3年版厚生労働白書では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、非正規雇用を多く占める女性の失業や、高い自死率、自粛生活により家事・育児に費やす時間が増えた等の報告があり、特に女性達の置かれている状況が厳しさを増していることが読み取れます。

世界的にも令和2年国連政策概要「新型コロナウイルスの女性への影響」の中で、既に無償ケア労働の増加報告があるように、感染拡大による休校、休園など、益々女性へのケア役割の期待や責任を加速させ、その背景には、強固な性別役割が潜む社会構造が伺えます。

相談者の中には、育児や介護など無償ケア労働を担う方も少なくなく、新型コロナウイルスの感染拡大を機に、以前から存在していたジェンダー格差が顕在化されたのではないのでしょうか。

●ジェンダー格差なく共に支えあう社会を目指して

新型コロナウイルスの影響により、医療・福祉や保育、公共機関など社会生活に不可欠な仕事に従事するエッセンシャルワーカーによる有償ケア労働の重要性が再認識されるようになりました。一方で、その待遇面や働く環境面の処遇改善等が求められています。

わたしたちの社会は、様々な人との関わりや、ケアの繋がりによって支えられています。有償・無償ケア労働の負担が女性に偏ることのない社会。ひいては、ジェンダー格差のない、共に支えあう社会であるために、わたし達はこれからも相談者の方々と共に考え、情報提供や支援を行っていきます。

ジェンダーとは？

主には社会的、文化的に作られた性別のことを指します。
例えば、「女性なら〇〇するべき」「男性とはこういうもの」といったものの見方や考え方をいいます。

新着図書を紹介



図書情報ステーション

最近の新着図書からお勧めの本を紹介します。貸出中の場合は予約ができます。

詳しくは図書情報ステーションまでお尋ねください。電話0942-30-7801

【開館時間】月曜～土曜日10:00～18:00、日曜日10:00～17:00

【休館日】月の末日、第2・第4木曜日、国民の祝日・休日、年末年始・特別整理期間

●編集・発行●
令和4年3月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037

久留米市諏訪野町1830-6

えーるピア久留米内

TEL. 0942-30-7800

FAX. 0942-30-7811

URL: <https://www.city.kurume.fukuoka.jp>

E-mail: danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



わたしは黙らない 性暴力をなくす30の視点

合同出版編集部／編 合同出版 2021.10

「性暴力」について、語ろうとする人の口をふさぎ続けてきたわたしたちの社会。それでも声を上げ、問題を明らかにしようとして闘ってきた人たちがそれぞれの記憶と記録を綴る。コラム、おすすめの本も掲載。



男子という闇 少年をいかに性暴力から守るか

エマ・ブラウン／著 明石書店 2021.11

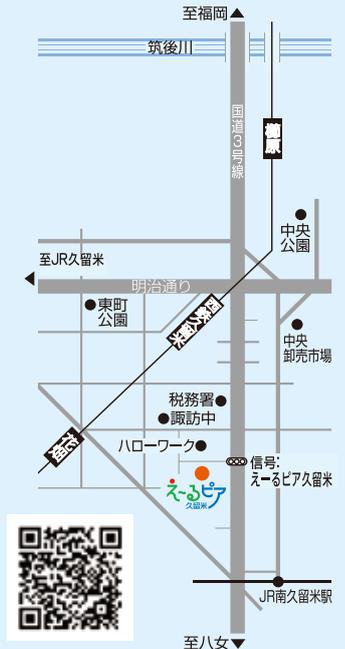
全米各地で研究者、学校関係者や親子など数百人に聞き取りを行い、男子の性加害・被害実態を調査。男子大学生の22%が入学前に性暴力を振った経験をもつ米国の「男らしさ」の常識に挑み、あるべき性教育を模索する。



もう空気なんて読まない

石川 優実／著 河出書房新社 2021.11

空気を読んで生きてきた私は、自分自身をどこかに失ってしまったような気がする。私たちは、もっと怒っていい。幸せのために。恋愛やセックス、仕事、人間関係。生活と地続きにあるフェミニズムの形を見つめ直す。



- 徒歩／西鉄久留米駅から約10分（約700m）
- バス／西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。